

特集 ■ スポーツ障害のリハビリテーション

近年、スポーツ障害に対するリハビリテーションは、スポーツ外傷の予防からスポーツの復帰までを扱い、その専門領域は多岐にわたる。本特集では、運動器を扱うスポーツ障害のリハビリテーションと、内科的な視点から行われるべき健康増進のための運動指針について、国内外の動向や課題、展望などについて、ご解説いただいた。

国内外の動向 (久保田光昭氏ら, 831 頁)

スポーツにとって重要なアスレチックリハビリテーションをきちんと行える施設や充実したスタッフを揃えた所は少ない。しかし近年、外傷予防を年頭に置いたプログラムもできつつあり、アスレチックリハビリテーションに活かされつつある。本稿では、スポーツ障害のリハビリテーションの国内外の動向について、スポーツ外傷の予防を中心に紹介している。

上肢障害に対するマネージメント—当院における成長期野球肘への取り組み (高松 晃氏ら, 835 頁)—

投球動作は、オーバーユースや誤った投球動作により、障害を引き起こす危険性を常に孕んでいる。特に、成長期の少年野球選手は、未熟な筋骨格系や投球動作などにより投球障害に陥りやすい。本稿では、東京厚生年金病院のスポーツ外来における成長期少年野球選手に対する取り組みを紹介するとともに、その課題について解説している。

下肢障害に対するマネージメント (今屋 健氏ら, 845 頁)

術後リハビリテーション、アスレチックリハビリテーションなど、スポーツ復帰に向けたトータルマネージメントが必要な疾患として、下肢では「アキレス腱断裂」と「膝前十字靭帯損傷」が挙げられる。本稿では、下肢疾患のなかでも「アキレス腱断裂」と「膝前十字靭帯損傷」のマネージメントについて紹介するとともに、その課題について解説している。

腰椎疾患・腰痛のマネージメント (舟崎裕記氏, 853 頁)

腰部はいかなるスポーツ競技においても身体を中心、いわゆるコアとして身体全体の支持のみならず、動作の力点、あるいは運動連鎖の連結役として重要な役割を演じている。同部の障害は、長期に及ぶほど、能力低下を来す重大な問題となることから、適切な診断と治療を行うことが早期のスポーツ復帰のためには重要となる。本稿では、腰痛を来す疾患の特徴と診断、さらにスポーツ復帰に向けた治療について概説している。

健康増進のための運動指針—これまでの変遷とこれからの方向性 (石田浩之氏, 859 頁)—

欧米で運動と慢性疾患の研究が始まった頃、日本では肥満も糖尿病も対岸の火事であった。それから 30 年余りが経過した今日、ようやく臨場感をもってわが国でも議論が行われるようになった。高齢化社会を迎えているわが国において、スポーツ障害に対するリハビリテーションは、運動器的な視点のみならず、さまざまな角度からもなされるべきである。本稿では、健康増進のための運動指針について、その歴史と今後のあり方について概説している。

ニュース

ケアラー、約半数が「身体に不調」—市民団体が実態調査… 884 障害者の被災状況、全体像つかめず… 892 重度障害者の短期入所開始—利根、龍ヶ崎の老健施設 (茨城県) … 899 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2011 年 7 月号 特集目次… 899 聴覚障害者、バイク運転も可能に—道交法施行規則を改正へ… 900

お知らせ

第 12 回日本リハビリテーション心理研究会… 843 第 8 回日本医療リハビリテーション協会学術大会… 884 第 16 回認知神経科学学会学術集会… 891 第 38 回日本臨床バイオメカニクス学会… 892 アスリートケア 2011 年度研修会… 898 平成 23 年度茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会 (平成 23 年度全国訪問リハビリテーション研究会ステップアップ研修会 in 茨城) … 900 第 55 回日本手外科学会学術集会… 911 リハビリテーションプロフェッショナルセミナー 2011 (リハプロ 2011) … 914